長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第 28 集

長崎県埋蔵文化財調査年報 26

［ 平成 29 年度調査分 ］

２０１８

長崎県教育委員会

はじめに

長崎県には先人たちの残した3,800箇所を超える遺跡（埋蔵文化財）があります。こうした埋蔵文化財は地域の歴史を物語り、地域づくりや人づくりに活用できる国民共有の財産です。私たちはこれら先人から受け継いだ貴重な文化財を適切に保存・活用し、後世の人々に伝えていく責務があります。

長崎県教育委員会では、国・県の公共事業に伴う開発が行われる際には事前に予備調査を実施し、開発部局との協議を行って埋蔵文化財の保護を図り、その結果やむを得ず保護できない場合においては記録保存のための発掘調査を実施しています。平成29年度は大村市における九州新幹線西九州ルート建設に伴う発掘調査や、都市計画道路建設に伴う発掘調査などを行いました。また、「原の辻遺跡」の全容解明のための範囲確認調査や、「鷹島海底遺跡」の新たな元寇船発見に繋がるための調査を継続的に実施しています。

本書は、平成29年度に長崎県教育委員会が行った全ての発掘調査の概要、長崎県埋蔵文化財センターが行った調査研究や遺物の保存処理、展示、普及啓発などの事業概要について掲載しております。本書が県民の皆様の地域の歴史や文化への理解の一助になれば幸いです。

平成30年8月

長崎県教育委員会教育長

池　松　誠　二

例　　言

1　本書は長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が平成29年度に実施した発掘調査の概要を収録したものである。

2　調査遺跡名の【　】内は長崎県教育委員会の実施した遺跡調査番号である。

3　調査概要の遺跡位置図は長崎県教育庁学芸文化課のウェブコンテンツ『長崎県遺跡地図』を使用している。

4　各遺跡の調査担当者と調査概要の執筆者は文末に記している。

5　本書の編集は長崎県埋蔵文化財センターが行った。

本　文　目　次

Ⅰ．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状・・・

Ⅳ．平成 29 年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・ 17
１．諫早農業高校遺跡（本調査）【201701】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
２．頭ヶ島白浜遺跡（範囲確認）【201702】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
３．平ノ前城跡（本調査）【201703】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
４．川端遺跡（本調査）【201704】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
５．竹松遺跡（本調査）【201705】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
６．中島遺跡（範囲確認）【201706】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
７．宇多尾遺跡（範囲確認）【201707】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
８．樋渡地点（試掘調査）【201708】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
９．大谷第１遺跡（範囲確認）【201709】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
10．原の辻遺跡（範囲確認）【201710】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
11．平ノ前城跡（本調査）【201711】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
12．鷹島海底遺跡（音波探査）【201712】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
13．田川遺跡（範囲確認）【201713】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
14．大谷第１遺跡（本調査）【201714】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

（報告書抄録）

Ⅰ．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

１．県が実施した発掘調査の現状

本県では、平成 22 年度から九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設工事に伴った試掘確認調査及び本調査が行われ、これまで路線部や車両基地において約 11 万㎡、11 遺跡において発掘調査を実施してきた。

平成 29 年度は、大村市平ノ前城跡で二期にわたり 2,240 ㎡の範囲で本調査が実施されている。平ノ前城跡は平成 21 年度の分布調査で新規に発見され、小規模ではあるが堀切や空堀が良好に残る中世の山城跡である。調査は新幹線の路線にかかる部分に限り行われ、曲輪 5 面、土塁 1 条の遺構とともに、15 世紀ごろの宝篋印塔の一部や 16 世紀後半ごろの中国製陶磁器などが新たに確認され、大村氏所領の端城の様相を示す貴重な成果となった。

新幹線車両基地の東側に計画された都市計画道路建設工事においても県による発掘調査が実施されている。大村市川端遺跡では約 1,950 ㎡の調査が実施され、掘立柱建物跡 1 棟をはじめ柱穴や土坑や溝などが確認され、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器や中世の土師器、石鍋などが出土している。また、竹松遺跡では、A・B に分けられた 2 地区で約 1,400 ㎡の本調査が実施され多くの柱穴群が確認されている。特に B 区では溝状遺構と並走した柵列が検出されており、周辺から出土した遺物から近世の遺構と考えられている。

西九州自動車道（松浦・佐々間）建設工事に関しては、平成 27 年度に実施した分布調査の結果で 2 遺跡を含む 13 地点で今後試掘確認調査が実施される見込みである。平成 29 年度に試掘調査が行われた樋渡地点では弥生時代から古墳時代にかけての遺物包含層が確認され、今後本調査が実施される予定である。

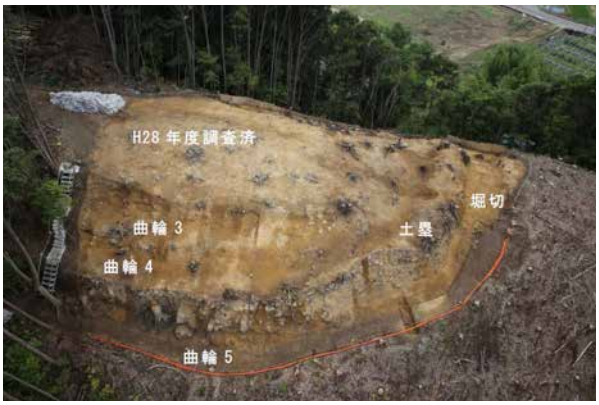
上記の内容を含め、県が平成 29 年度に実施した国・県の公共事業に伴う調査は、以下のとおりである。

【国事業】

・西九州自動車道（佐々～松浦間）建設工事に伴う試掘確認調査（松浦市御厨町樋渡地区・田川地区）

【県事業】

・都市計画道路池田沖田線建設工事に伴う大村市竹松遺跡緊急発掘調査



平ノ前城跡（新幹線関連）遺構検出状況

川端遺跡（都市計画道）遺構検出状況

・都市計画道路池田沖田線建設工事に伴う大村市川端遺跡緊急発掘調査
・長崎県立諫早農業高校草花管理室・収納室改築工事に伴う諫早市諫早農業高校遺跡緊急発掘調査
・県道 172 号線拡幅工事に伴う壱岐市大谷第 1 遺跡緊急発掘調査
・浦郷寺畑川通常砂防事業に伴う五島市宇多尾遺跡範囲確認調査
・主要地方道路福江富江線改良工事に伴う五島市中島遺跡範囲確認調査
・県道 172 号線拡幅工事に伴う壱岐市大谷第 1 遺跡範囲確認調査

また、保存目的調査としては、平成 14 年度から実施している壱岐市原の辻遺跡の範囲確認調査と、平成 25 年度から実施している松浦市鷹島海底遺跡調査事業として海底音波探査を、長崎県埋蔵文化財センターが実施している（第Ⅲ章）。

２．市町が実施した発掘調査の現状

市町が主体となる開発事業に伴う発掘調査としては、長崎市や佐世保市など市街地における公共事業や個人及び民間開発、大村市や諫早市など新幹線事業に関連した宅地開発、雲仙市や南島原市などでの大規模圃場整備に起因するものが多く、近年増加する傾向にある。

主な調査事例として、長崎市では新市庁舎建設工事に伴い魚の町遺跡の本調査が実施され、町屋の敷地割りや火災整理遺構など近世長崎の町並の様子を伺うことができた。また、小学校建設に伴う小島養生所及び関連施設跡の発掘調査では、養生所跡と部分的ではあるが分析究理所跡の基礎や石垣が検出され、写真等で残る遺構の痕跡が確認されている。佐世保市では市街地周辺での宅地開発に伴う発掘調査が増加しており、特に洞窟遺跡等にかかる事例もあることから現状保存に向けての協議に苦慮するケースも多い。大村市では総合運動公園の建設及び宅地造成等で黒丸遺跡及びその周辺で多数の発掘調査が行われており、県内で最も開発事業が集中する地域となっている。島原半島では広域にわたる圃場整備に伴った試掘確認調査が実施され、遺跡範囲の変更や新規遺跡の発見などがあり、本調査に対する対応の標準化が求められている。雲仙市永中道遺跡では縄文時代から弥生時代にかけての柱跡や弥生時代の溝状遺構などが検出されている。

保存目的調査としては、諫早市千々石ミゲル墓所推定地で実行委員会が中心となり発掘調査が実施され、施錠された長持を転用した木棺とガラス玉等の副葬品が出土するなど、江戸時代初期の潜伏キリシタン墓の様相がわかる貴重な成果があった。松浦市では元寇に関連する陸上遺跡の発掘調査を実施しており、昨年度は中世山城である日本山城跡の調査を実施し土塁等の遺構を確認している。対馬市越高遺跡では熊本大学と連携した発掘調査を実施しており、縄文時代早期（新石器時代前期）ごろの隆起文土器を伴う石組みの炉跡が検出されている。壱岐市カラカミ遺跡では内容確認の調査が実施されており、多くの出土遺物の中に「周」の文字が書かれた遼東系土器などが出土し、注目を集めている。

平成 29 年度 長崎県における発掘調査の履歴（１）

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	調査面積（㎡）	備考
諫早農業高校遺跡	諫早市	県(埋文)	2017/5/8	2017/6/9	学校建設	本調査	200.0	INK201701
平ノ前城跡	大村市	県(新幹線)	2017/5/24	2017/8/31	鉄道	本調査	1,200.0	HNM201703
川端遺跡	大村市	県(埋文)	2017/6/2	2017/10/25	道路	本調査	1,943.0	KBT201704
竹松遺跡	大村市	県(埋文)	2017/7/3	2017/11/17	道路	本調査	1,386.0	TAK201705
中島遺跡	五島市	県(埋文)	2017/7/31	2017/8/1	道路	範囲確認	8.0	NKS201706
宇多尾遺跡	五島市	県(埋文)	2017/8/2	2017/8/3	河川	範囲確認	8.0	UTA201707
樋渡地点	松浦市	県(埋文)	2017/9/25	2017/10/6	道路	試掘	138.0	HWT201708
大谷第1遺跡	壱岐市	県(埋文)	2017/10/25	2017/10/25	道路	試掘	1.3	OY1201709
原の辻遺跡	壱岐市	県(埋文)	2017/11/1	2017/12/28	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	160.0	HAR201710
鷹島海底遺跡	松浦市	県(埋文)	2017/11/11	2017/11/15	保存目的の範囲内容確認調査	音波探査	557,500.0	TKS201712
平ノ前城跡	大村市	県(新幹線)	2017/11/15	2018/1/30	鉄道	本調査	1,040.0	HNM201711
田川遺跡	松浦市	県(埋文)	2018/2/13	2018/2/23	道路	範囲確認	50.0	TAG201713
太田遺跡(隣接地)	松浦市	県(埋文)	2018/2/20	2018/2/21	道路	試掘	4.0	OTA201715
大谷第1遺跡	壱岐市	県(埋文)	2018/2/28	2018/3/27	道路	本調査	35.0	OY1201714
魚の町遺跡	長崎市	長崎市	2017/3/1	2017/11/24	その他建物(新市庁舎建設)	本調査	1,750.0	
桜町遺跡	長崎市	長崎市	2017/4/27	2017/8/4	その他建物(集合住宅)	本調査	336.0	
唐人屋敷跡	長崎市	長崎市	2017/5/25	2017/6/1	個人住宅	範囲確認	4.0	
唐人屋敷跡	長崎市	長崎市	2017/6/2	2017/6/14	道路	範囲確認	12.3	
唐人屋敷跡	長崎市	長崎市	2017/6/14	2017/7/20	個人住宅	本調査	30.0	
新地唐人荷蔵跡(隣接地)	長崎市	長崎市	2017/7/25	2017/7/27	その他建物(マンション建設)	試掘	4.6	
小島養生所跡及び関連遺跡	長崎市	長崎市	2017/7/27	2017/9/29	学校建設	本調査	1,565.0	
唐人屋敷跡	長崎市	長崎市	2017/8/4	2017/9/8	道路	本調査	125.0	
上町遺跡	長崎市	長崎市	2017/11/15	2018/2/28	その他建物(保育所)	本調査	480.0	
長崎原爆遺跡(山王神社)	長崎市	長崎市	2017/12/15	2018/3/20	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	103.0	
唐人屋敷跡	長崎市	長崎市	2018/1/9	2018/1/26	道路	本調査	19.0	
小島養生所跡及び関連遺跡	長崎市	長崎市	2018/3/12	2018/3/22	学校建設	本調査	97.2	
四反田遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/5/11	2017/5/11	住宅	試掘	10.0	
てぼ神古墳(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/5/30	2017/5/31	宅地造成	試掘	20.0	
宮津遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/6/9	2017/6/9	個人住宅	試掘	2.3	
針尾東A遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/8/8	2017/8/10	その他建物(ファームポンド新設)	試掘	7.2	
広田2丁目179外	佐世保市	佐世保市	2017/8/8	2017/8/10	宅地造成	試掘	4.5	
中里B遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/8/18	2017/8/18	その他開発(土地売買前の盛土)	試掘	10.0	
四反田遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/8/21	2017/8/24	その他建物(公民館)	試掘	6.1	
福井洞窟	佐世保市	佐世保市	2017/9/4	2017/10/10	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	18.0	
竹松B遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/9/20	2017/9/26	宅地造成	試掘	16.0	
上直谷岩陰(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/10/4	2017/10/5	その他建物(防火水槽)	試掘	2.4	
早岐瀬戸遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/10/17	2017/10/19	その他建物(保育園)	試掘	20.0	
宮の本遺跡	佐世保市	佐世保市	2017/11/7	2017/12/15	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	165.0	
竹辺D遺跡	佐世保市	佐世保市	2017/11/14	2017/11/16	個人住宅	範囲確認	2.0	
岩下洞穴遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/11/27	2017/11/28	個人住宅	試掘	2.7	
天神洞穴遺跡	佐世保市	佐世保市	2018/1/15	2018/1/24	道路、住宅、店舗、宅地造成	範囲確認	12.1	
竹辺遺跡	佐世保市	佐世保市	2018/1/23	2018/1/25	個人住宅兼工場または店舗	範囲確認	14.5	
竹辺遺跡	佐世保市	佐世保市	2018/2/19	2018/3/30	個人住宅兼工場または店舗	本調査	85.1	
島原城跡	島原市	島原市	2017/5/10	2017/5/22	住宅・宅地造成	範囲確認	12.0	
小原下遺跡	島原市	島原市	2017/6/16	2017/6/16	その他開発(駐車場)	範囲確認	4.0	
島原城跡	島原市	島原市	2018/3/19	2018/3/23	個人住宅・宅地造成	範囲確認	4.0	
広谷A遺跡	諫早市	諫早市	2017/2/15	2017/3/21	道路	範囲確認	4.0	
正久寺圃場6(仮称)	諫早市	諫早市	2017/6/9	2017/7/3	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	8.0	
猿崎遺跡	諫早市	諫早市	2017/6/28	2017/8/4	個人住宅	範囲確認	4.0	
千々石ミゲル墓所推定地	諫早市	千々石ミゲル墓所(推定)発掘調査実行委員会	2017/8/20	2017/9/20	学術調査	本調査	10.0	
赤島遺跡	諫早市	諫早市	2017/9/26	2017/10/20	個人住宅	範囲確認	4.0	
太郎丸遺跡	諫早市	諫早市	2017/10/20	2017/11/17	個人住宅	範囲確認	4.0	
(仮称)正久寺圃場67	諫早市	諫早市	2017/11/17	2017/12/27	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	8.0	
駄森積石塚	諫早市	諫早市	2018/2/16	2018/3/19	その他開発(産業団地)	試掘	4.8	
石走古墳群	大村市	大村市	2017/4/13	2017/4/13	個人住宅	範囲確認	8.4	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/5/8	2017/6/1	その他開発(テニスコート建設)	範囲確認	171.0	
赤木五輪塔(隣接)	大村市	大村市	2017/5/10	2017/5/19	個人住宅	試掘	8.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/5/15	2017/5/19	個人住宅	範囲確認	9.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/5/15	2017/5/17	店舗	範囲確認	30.0	
聖宝寺跡	大村市	大村市	2017/5/17	2017/5/17	個人住宅	範囲確認	4.0	
三城城下跡(隣接)	大村市	大村市	2017/5/19	2017/5/22	個人住宅	試掘	3.0	
帯取遺跡	大村市	大村市	2017/5/25	2017/6/6	宅地造成	範囲確認	40.0	
竹松遺跡	大村市	大村市	2017/6/5	2017/6/5	個人住宅	範囲確認	6.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/6/8	2017/6/16	宅地造成	範囲確認	114.0	
富の原遺跡	大村市	大村市	2017/6/30	2017/6/30	その他開発(駐車場)	範囲確認	14.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2017/7/10	2017/7/13	住宅	範囲確認	22.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/7/10	2017/8/10	宅地造成	範囲確認	140.0	
蓮蔵寺遺跡	大村市	大村市	2017/7/21	2017/7/21	住宅	範囲確認	6.0	

平成 29 年度 長崎県における発掘調査の履歴（２）

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	調査面積（㎡）	備考
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/7/10	2017/8/10	宅地造成	範囲確認	140.0	
蓮蔵寺遺跡	大村市	大村市	2017/7/21	2017/7/21	住宅	範囲確認	6.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/7/21	2017/7/26	宅地造成	範囲確認	30.0	
小路口遺跡	大村市	大村市	2017/7/26	2017/7/26	住宅	範囲確認	13.5	
黒丸遺跡(隣接地)	大村市	大村市	2017/8/23	2017/8/23	その他開発(駐車場)	試掘	6.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2017/9/8	2017/9/8	その他開発(携帯電話基地局)	範囲確認	3.5	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/10/20	2018/2/16	その他開発(テニスコート建設)	本調査	359.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/10/25	2017/10/27	個人住宅・宅地造成	範囲確認	12.0	
帯取遺跡(隣接地)	大村市	大村市	2017/11/8	2017/11/10	宅地造成	試掘	12.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/11/15	2017/11/27	宅地造成	範囲確認	34.0	
立小路遺跡	大村市	大村市	2017/11/27	2017/11/29	宅地造成	範囲確認	36.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/12/11	2017/12/22	宅地造成	範囲確認	97.0	
石走遺跡(隣接地)	大村市	大村市	2017/12/13	2017/12/14	河川	試掘	8.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2018/1/15	2018/1/16	個人住宅	範囲確認	8.5	
冷泉遺跡	大村市	大村市	2018/1/24	2018/2/9	宅地造成	範囲確認	128.4	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2018/2/20	2018/2/23	住宅	範囲確認	22.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2018/3/6	2018/3/9	公園造成	範囲確認	11.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2018/3/13	2018/3/13	個人住宅	範囲確認	3.5	
天神下第2遺跡	平戸市	平戸市	2017/6/5	2017/6/9	その他の開発(太陽光発電)	範囲確認	5,777.0	
下寺遺跡	平戸市	平戸市	2017/10/4	2017/10/5	その他の開発(消防施設)	範囲確認	10.0	
志々伎神社沖の宮遺跡	平戸市	平戸市	2017/10/23	2018/3/20	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	4.0	
亀岡遺跡・亀岡城跡	平戸市	平戸市	2017/11/15	2017/11/22	公園造成	範囲確認	40.0	
日本山城跡	松浦市	松浦市	2017/5/24	2017/6/12	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	13.5	
津崎鼻遺跡	松浦市	松浦市	2017/7/3	2017/7/13	その他建物(小型風力発電設備)	範囲確認	4.0	
戸ノ本崎遺跡	松浦市	松浦市	2017/7/3	2017/7/13	その他建物(小型風力発電)	範囲確認	4.0	
大石B遺跡	松浦市	松浦市	2017/7/3	2017/7/13	その他建物(小型風力発電設備)	範囲確認	4.0	
栢ノ木遺跡	松浦市	松浦市	2017/8/21	2017/9/5	宅地造成	範囲確認	37.0	
越高遺跡	対馬市	対馬市	2017/9/9	2017/9/21	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	80.6	
越高遺跡	対馬市	熊本大学	2017/9/9	2017/9/21	学術調査	範囲確認	35.0	
原の辻遺跡	壱岐市	壱岐市	2017/3/29	2017/3/30	その他の農業関係事業(農道等も含む)	範囲確認	4.0	
原の辻遺跡	壱岐市	壱岐市	2017/6/13	2017/7/20	その他建物(浄化槽設置)	本調査	22.0	
カラカミ遺跡	壱岐市	壱岐市	2017/7/3	2017/12/22	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	200.0	
山中遺跡	壱岐市	壱岐市	2017/12/6	2017/12/21	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	45.0	
小場遺跡	壱岐市	壱岐市	2018/1/4	2018/3/28	その他農業関係事業(農道等を含む)	本調査	210.0	
カラカミ遺跡	壱岐市	壱岐市	2018/1/4	2018/3/27	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	126.0	
宮田地区	雲仙市	雲仙市	2017/4/24	2017/9/22	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	64.0	
永中道遺跡	雲仙市	雲仙市	2017/5/17	2017/12/13	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	126.0	
永中道遺跡	雲仙市	雲仙市	2017/5/17	2017/12/13	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	440.0	
永中道遺跡	雲仙市	雲仙市	2017/5/17	2017/12/13	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	1,964.0	
登建峠遺跡	雲仙市	雲仙市	2017/6/26	2017/8/8	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	120.0	
山田原遺跡	雲仙市	雲仙市	2017/9/25	2017/9/26	その他建物	範囲確認	4.0	
伊古遺跡	雲仙市	雲仙市	2018/1/9	2018/1/10	住宅	範囲確認	8.0	
稲荷鬼塚遺跡	雲仙市	雲仙市	2018/1/15	2018/1/18	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	10.0	
弘法原遺跡	雲仙市	雲仙市	2018/1/15	2018/1/18	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	4.0	
中高野遺跡	雲仙市	雲仙市	2018/2/2	2018/3/2	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	4.0	
下高野遺跡	雲仙市	雲仙市	2018/2/2	2018/3/2	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	2.0	
ドンク石遺跡	雲仙市	雲仙市	2018/2/2	2018/3/2	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	2.0	
赤原遺跡	雲仙市	雲仙市	2018/2/2	2018/3/2	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	10.0	
赤原遺跡	雲仙市	雲仙市	2018/3/12	2018/3/13	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	2.0	
伊古遺跡	雲仙市	雲仙市	2018/3/23	2018/3/27	その他建物(庁舎)	範囲確認	6.0	
大坂遺跡	南島原市	南島原市	2017/5/22	2017/5/31	道路	試掘	20.0	
内野貝塚	南島原市	南島原市	2017/5/23	2017/6/8	道路	試掘・範囲確認	32.0	
慈恩寺跡	南島原市	南島原市	2017/5/25	2017/7/28	道路	本調査	145.0	
津波見地区	南島原市	南島原市	2017/6/9	2017/8/4	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	148.0	
下板首遺跡	南島原市	南島原市	2017/8/1	2017/8/4	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	8.0	
水打場遺跡	南島原市	南島原市	2017/8/8	2017/8/28	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	48.0	
浦田遺跡	南島原市	南島原市	2017/8/25	2017/9/29	個人住宅	範囲確認	10.5	
上横馬場遺跡	南島原市	南島原市	2017/8/30	2017/10/11	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲確認	64.0	
出口遺跡	南島原市	南島原市	2017/10/24	2018/3/23	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	1,460.0	
日野江城城下地区遺跡	南島原市	南島原市	2018/1/30	2018/2/22	その他開発(集果施設)	範囲確認	11.0	
日野江城城下地区遺跡	南島原市	南島原市	2018/3/6	2018/3/23	その他開発(駐車場・トイレ整備)	範囲確認	10.0	
中尾登窯跡	波佐見町	波佐見町	2017/12/20	2018/3/30	保存目的の範囲内容確認調査	範囲確認	4.0	
頭ヶ島白浜遺跡	新上五島町	新上五島町	2017/4/18	2017/5/1	学術調査	範囲確認	30.0	KSR201702 支援:県世界遺産、県埋文

平成 29 年度 県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

編集機関	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集数
新幹線文化財調査事務所	竹松遺跡Ⅱ	竹松遺跡	新幹線文化財調査事務所調査報告書	5
	一里松遺跡	一里松遺跡		7
	三城城下跡	三城城下跡		8
	今富城跡	今富城跡		9
	立小路遺跡	立小路遺跡	長崎県文化財調査報告書	216
長崎県埋蔵文化財センター	長崎県埋蔵文化財調査年報25（平成28年度調査分）	一里松遺跡、三城城下跡、立小路遺跡、竹松遺跡、川端遺跡隣接地、今富城跡、三城城跡、宮下貝塚、原の辻遺跡、平ノ前城跡、長崎奉行所跡、滝河原遺跡、百間竈遺跡、鷹島海底遺跡	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書	23
	諫早農業高校遺跡	諫早農業高校遺跡		24
	鷹島海底遺跡	鷹島海底遺跡		25
	川端遺跡	川端遺跡		26
	原の辻遺跡	原の辻遺跡		27

平成 29 年度 県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

編集機関	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集数
長崎市教育委員会	桜町遺跡	桜町遺跡	―	―
	国指定史跡高島炭鉱跡高島北渓井坑跡	高島炭鉱跡・高島北渓井坑跡	―	―
	国指定史跡出島和蘭商館跡	出島和蘭商館跡	―	―
	出島和蘭商館跡	出島和蘭商館跡	―	―
佐世保市教育委員会	早岐瀬戸遺跡（第3次・第6次調査）	早岐瀬戸遺跡	佐世保市文化財調査報告書	16
島原市教育委員会	上油堀遺跡・下油堀遺跡	上油堀遺跡・下油堀遺跡	島原市文化財調査報告書	17
松浦市教育委員会	松浦市内遺跡確認調査	刈萱城跡、大石Ｃ遺跡、青島遺跡、大石Ｂ遺跡、津崎鼻遺跡、戸ノ本崎遺跡、栢ノ木遺跡	松浦市文化財調査報告書	8
雲仙市教育委員会	小路遺跡Ⅱ	小路遺跡	雲仙市文化財調査報告書	17
南島原市	日野江城跡	日野江城跡	南島原市文化財調査報告書	9
	古作遺跡	古作遺跡		10
	東大窪遺跡	東大窪遺跡		11

Ⅱ．本県の埋蔵文化財保存活用事業
～ 明日につなぐ埋蔵文化財人づくり事業 ～

１．長崎県市町文化財保護行政主管課長会議・担当者会議

目　的　市町文化財保護行政主管課の課長及び担当者に、文化財保護に関する新たな情報や専門的な知識を習得する場を提供し、統一的なテーマを中心に講義・事例発表・討議などを行うことにより専門的な資質を向上させ、本県文化財保護行政の適切かつ円滑な推進を図る。

期　日　平成 29 年 8 月 22 日（火）～ 23 日（水）

会　場　長崎県農協会館・「えきまえ」いきいきひろば

参加者　県及び市町文化財行政担当者　　計　55 名

内　容　・「未来につなぐ史跡整備」（文化庁記念物課　佐藤正知主任調査官）
・「出島復元について」（長崎市出島復元整備室　馬見塚純治室長）
・文化財関係補助金の種別と計画的な執行について
・間接補助事業に対する対応について
・市町からの協議・照会事項について

２．開発部局・文化財保護部局担当者基礎研修

目　的

（１）　開発部局担当者に文化財に対する理解を深めてもらい、その取り扱いについて具体的な情報を提供することにより、円滑な文化財行政を推進する。

（２）　文化財主管課担当者に基礎的な知識を習得する場を提供し、文化財の保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどの理解を深めさせ資質の向上を図る。

期　日　平成 29 年 5 月 19 日（金）

会　場　長崎歴史文化博物館１階ホール

参加者　・県及び市町開発部局担当者
・県及び市町文化財担当者（実務経験 3 年未満を主体）　計　67 名

内　容　・埋蔵文化財諸届に関する確認事項

会議風景

研修風景

・無届工事事例について
・長崎県遺跡地図ウェブサイトについて
・埋蔵文化財関係補助金制度の説明
・文化財の活用について（事例報告、意見交換）

３．埋蔵文化財担当者専門技術研修

目　的　遺跡から出土する石材の基礎的な知識および調査方法に関する研修を通して、埋蔵文化財専門職員としての資質の向上を図る。

日　時　平成 30 年 1 月 15 日（月）・16 日（火）

会　場　長崎県埋蔵文化財センター

講　師　小畑弘己（熊本大学文学部教授）、片多雅樹（長崎県埋蔵文化財センター調査課係長）

参加者　県内埋蔵文化財担当者 5 名及びセンター職員

内　容　・遺跡出土土器に残る圧痕調査の研修
・土器圧痕観察法の実習
・土器圧痕レプリカ SEM 法の実習

土器圧痕調査の研修（小畑弘己先生）

土器圧痕レプリカ SEM 法の実習

Ⅲ．長崎県埋蔵文化財センターの事業

１．調査研究事業

長崎県埋蔵文化財センターでは壱岐市原の辻遺跡と松浦市鷹島海底遺跡において調査研究事業を行っている。平成 29 年度に実施した事業の概要は以下のとおりである。

原の辻遺跡の範囲確認調査は、遺跡内の環濠や旧地形等の状況調査を目的に、平成 14 年度から実施している。調査は 10 年ごとに計画を立て実施しているものであり、今回の調査計画は北東側から南東側にかけての遺跡の広がりや遺構の状況を確認するため、平成 24 年度からの 10 年計画を作成し実施しているものである。

平成 29 年度は丘陵東側の低地部の調査を当初予定していたが、所有者との調整が難航したため、予定地区を変更し、南側丘陵部の原ノ久保地区を先行して実施することとなった。原ノ久保地区は昭和 52 年度の長崎県教育委員会による発掘調査で墓域であることが確認され、平成 8 年度に行われた 2 度目の調査で 12 基の箱式石棺墓をはじめ、石蓋土壙墓や甕棺墓などからなる弥生時代後期から終末期にかけての墓域であることが明らかとなった。また今回調査区を設定した地点は、平成 12 年度にトレンチを設定し、弥生時代中期の合口小児甕棺墓 1 基が出土している。

今回の調査はその墓域の広がりを確認するために、平成 29 年 11 月 1 日から平成 29 年 12 月 28 日にかけて約 160 ㎡の範囲で実施した。調査の結果新たな墓は確認されなかったが、溝が 1 条確認されている。

県による鷹島海底遺跡の調査は、平成 24 年 3 月の水中遺跡として全国最初の国史跡「鷹島神崎遺跡」の指定を契機に平成 25 年度から実施している。平成 25 年度からの 3 ヶ年は床浪地区において潜水による目視調査を実施してきたが、平成 28 年度からは松浦市が行っている神崎地区での新たな元寇船発見のための調査支援のために、周辺地区の音波探査を行っている。平成 29 年度は床浪地区の 557,500 ㎡の範囲で海底音波探査を実施した。その結果、50 地点で異常反射体が確認されたが、特徴的な反応が確認される場所は見当たらなかった。

２．保存処理事業

県保有資料の金属製品 261 点、木製品 30 点の計 291 点に関して国庫補助事業を活用して保存処理を行った（表１）。木製品はトレハロース含浸処理法により保存処理を実施した。金属製品は主に鉄製品と銅製品に大別されるが、いずれも透過Ｘ線撮影等事前調査を実施したのち、錆取り作業⇒脱塩処理（銅製品はベンゾ・トリ・アゾール（ＢＴＡ）処理）⇒樹脂強化含浸処理⇒接合・修復を実施した。

保存処理を実施した鉄器

鉄製品の錆取り作業

表１　平成 29 年度国庫補助事業による保存処理一覧

◆金属製品：２６１点

遺　跡　名	所在地	遺跡調査番号	処理点数	処理内容	備　考
竹松遺跡	大村市	201108	8	透過Ｘ線撮影 ↓ 錆取り・ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ ↓ 脱塩・BTA処理 ↓ 接合 ↓ 樹脂含浸強化	
竹松遺跡	大村市	201202	15		
小路口遺跡	大村市	201207	33		
竹松遺跡	大村市	201208	22		
竹松遺跡	大村市	201217	1		
竹松遺跡	大村市	201301	4		
竹松遺跡	大村市	201302	68		
竹松遺跡	大村市	201303	3		
平野遺跡	大村市	201305	1		
竹松遺跡	大村市	201404	16		
竹松遺跡	大村市	201405	37		
竹松遺跡	大村市	201408	2		
竹松遺跡	大村市	201502	9		
竹松遺跡	大村市	201504	2		
竹松遺跡	大村市	201506	10		
井樋堤塘跡	諫早市	201514	1		
竹松遺跡	大村市	201609	14		
諫早農業高校遺跡	諫早市	201701	10		
川端遺跡	大村市	201704	5		

◆木製品：３０点

遺　跡　名	所在地	調査番号	処理点数	処理方法	備　考
原の辻遺跡	壱岐市	201513	30	ﾄﾚﾊﾛｰｽ含浸処理	

総計：２９１点

また県内市町が保有する資料に関しても所定の申請を行えば保存処理施設の利用を許可しており、平成 29 年度は 5 市からの利用があり計 558 点の保存処理を行った（表２）。

表２　県内市町保存処理点数一覧

市町名	利用機関	種別	点数
長崎市	長崎市文化財課	木製品	30
	出島復元整備室	金属製品	4
佐世保市	佐世保市社会教育課	金属製品	170
諫早市	千々石ミゲル墓所発掘調査実行委員会	金属製品	70
		ガラス	65
壱岐市	壱岐市文化財課	金属製品	34
		土器	12
雲仙市	雲仙市社会教育課	土器	173

計：５５８点

千々石ミゲル墓所跡出土「棹通し」の保存処理
出土時⇒レントゲン写真⇒錆取り後

出土遺物の保存処理に伴う事前調査機器（精密分析機器）も保有し、金属製品の材質分析や構造調査も行っている。外部利用も受け入れており、平成 29 年度は 14 機関が、実体顕微鏡撮影装置、透過Ｘ線撮影装置、蛍光Ｘ線分析装置、三次元計測器などを利用した（表３）。

表３　平成 29 年度 精密分析機器外部利用一覧

利用時期	利用者	利用内容	使用機器
2017年4月	一支国博物館	染形紙の調査	赤外線カメラ
2017年4月	国立科学博物館	金属生産関連資料の調査	透過Ｘ線撮影、蛍光X線分析
2017年5月	雲仙市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光Ｘ線分析装置
2017年6月	佐世保市教育委員会	鉄器の保存処理	透過X線撮影、錆取り装置
2017年6月	雲仙市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光Ｘ線分析装置
2017年7月	松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土金属製品の調査	透過Ｘ線撮影、蛍光X線分析
2017年7月	フランス国立東洋言語文化大学	出土牛骨の三次元計測	三次元計測
2017年9月	福岡旧石器文化研究会	黒曜石の産地推定	蛍光Ｘ線分析装置
2017年9月	平戸市文化交流課	金属製品の調査	透過X線撮影装置
		お札の調査	赤外線カメラ
2017年10月	島原市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光Ｘ線分析装置
2017年10月	千々石ミゲル墓所発掘調査実行委員会	金属製品の保存処理	透過X線撮影装置、錆取り装置
		ガラス製品の成分分析	顕微鏡、蛍光X線分析装置
2017年12月	雲仙市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光Ｘ線分析装置
2018年1月	対馬市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光Ｘ線分析装置
2018年1月	新幹線文化財調査事務所	イスラム陶器の分析	蛍光Ｘ線分析装置
2018年1月	新上五島町鯨賓館ミュージアム	出土玉類の調査	蛍光X線分析装置、電子顕微鏡
2018年2月	九州歴史資料館	金属製品の調査	透過X線撮影装置、蛍光X線分析装置
2018年3月	雲仙市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光Ｘ線分析装置
		土器圧痕レプリカ法	電子顕微鏡
		縄文土器の樹脂含浸強化	ドラフトチャンバー

３．教育普及事業

（１）オープン収蔵展示

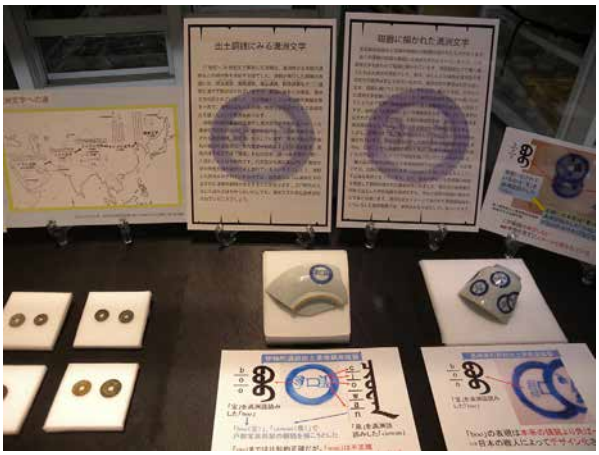
調査研究の成果を紹介するため、併設する壱岐市立一支国博物館のオープン収蔵庫（高さ５ｍのガラス張りで、キッズこうこがく研究所および博物館２階より内部を見ることができる収蔵庫）を活用して、遺物の展示を行っている。平成 29 年度は以下の２つのテーマで遺物展示を行った。

第１回目『古代のグルメ・クッキング展』では、旧石器時代から古代（奈良・平安時代）の人々の「食」にスポットをあて、石器や土器といった食料の獲得や調理作業に使われていた道具、貝殻や骨、炭化米といった当時食べられていたものの痕跡などを展示した。

第２回目『長崎の出土品にみる文字―もじ・モジ・Ｍｏｊｉ－』では、交流交易の窓口であった長崎で出土した文字に関する資料から陶磁器類や木製品を中心として、漢字やひらがな、ローマ字など文字の種類ごとに展示し、満洲文字の記された磁器の研究報告などを紹介した。

テーマ	主な展示品	期間
『古代のグルメ・クッキング展』	あわびおこし・骨銛（カラカミ遺跡）、フエダイ・フグ・マダラなどの骨、弥生土器、石包丁・石鎌・石錘・平鍬（原の辻遺跡）、アワビ・サザエ（串山ミルメ浦遺跡）、石匙（西輪久道遺跡）、石槍（茶園遺跡）、石鏃（鷹野遺跡）、ヤス（宮下貝塚）、製塩土器（壱岐嶋分寺）、炭化米など	平成29年7月7日 ～ 平成30年1月3日
『長崎の出土品にみる文字 ーもじ・モジ・Mojiー』	皿（万才町遺跡・長崎奉行所跡：長崎市）、コンプラ瓶（長崎西役所跡：長崎市）、クレーパイプ・墨書木製品（炉粕町遺跡：長崎市）、木簡（沖城跡：諫早市）、ヘラ描き土師器（松尾遺跡：島原市）、瓦（中里遺跡・長崎奉行所跡：長崎市）、硯・インク瓶（石田城跡：五島市）、ガラスペン（諫早家御屋敷跡：諫早市）など	平成30年3月9日 ～ 平成30年9月2日

『古代のグルメ・クッキング展』展示コーナーの一角



『長崎の出土品にみる文字』展示コーナーの一角

（2）情報誌

子ども向け情報誌として『キッズこうこがく』を年1回、A4サイズ表紙込み16ページで発刊した。『キッズこうこがく』は発掘調査の方法や県内の遺跡をわかりやすく解説した内容を掲載しており、県内小中学校や教育機関などに配布し、ホームページにも掲載している。

また、一般向け情報誌として『南北市羅』第11号から第13号の計3号をホームページで配信した。この情報誌では、壱岐の糸撚り具から見る文化伝播の考察や、オープン収蔵展示の方法等に関するコラムが主な内容となっている。

（3）ホームページおよびFacebookの公開更新

ホームページ（http://www.nagasaki-maibun.jp/）には『施設案内』のほか、近年の発掘成果を紹介している『発掘情報』、オープン収蔵展示や教育支援事業などを紹介する『インフォメーション』、刊行物やキッズこうこがく研究所のイベントなどを紹介する『イベント情報』、収蔵している出土品や精密分析機器の『施設利用』に関する申請書などを掲載している。また平成26年9月からはFacebookページ（http://fb.com/1461241530809034）を開設し、親しみやすい情報の発信に取り組んでいる。

（4）体験学習

『精密分析機器で調べてみよう』と題し、主に小学生を対象とした体験学習を年間10回行っている。子どもたちに分かりやすく、また興味を示すようなアイデアを盛り込み、各機器の特性を活かした工夫をこらしている。身近なものを、精密機器を用いて観察、分析することで得られる情報から、埋蔵文化財センターの仕事内容や成果の普及活動に努めている。平成29年度は10回の開催で計80名の参加があった。

（5）バックヤードツアー

埋蔵文化財センターに併設されている一支国博物館では、毎月第3土曜日にバックヤードツアーをセンターと共催で実施している。埋蔵文化財センターの保存処理施設や出土品収蔵庫等を見学するツアーで、博物館学芸員とセンター職員とで対応している。平成29年度は12回の開催で計105名の参加があった。

（６）資料貸出・閲覧・掲載許可

収蔵する出土品の貸出や資料閲覧、写真等掲載に関して、所定の申請を受け、使用目的等適当であれば許可している。平成29年度は出土品等貸出３件、資料閲覧８件、写真等掲載７件の申請に対応した。

（７）長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援

本センターの特色ある取組の一つとして、壱岐高校の東アジア歴史・中国語コース支援をあげることができる。この取組では、センター職員がコースの授業を担当したり体験入学等を支援したりして

学校設定科目の授業に関すること

			歴史学入門（1年）		考古学入門・生活文化史（2年）		課題研究（3年）	
月	日	曜	授業名	担当者	授業名	担当者	授業名	担当者
4	19	水			考古学研究法①	古澤・長岡		
	20	木	博物館・センター見学	片多・古澤・長岡				
	24	月					課題研究支援①	古澤・長岡
	26	水			考古学研究法②	古澤・長岡		
5	24	水	壱岐の史跡	古澤・長岡	壱岐の史跡	古澤・長岡		
6	14	水			木器・金属器概説	山梨・長岡		
	19	月					課題研究支援②	古澤・長岡
	21	水	東アジアの地誌	古澤・長岡	東アジアの地誌	古澤・長岡		
7	5	水	東アジアの歴史	古澤・長岡	東アジアの歴史	古澤・長岡		
	10	月					課題研究支援③	川道・古澤・長岡
9	13	水			土器概説・土器作り	松元・長岡		
	20	水			博物館学・展示方法の研究	片多・長岡		
	27	水			土器焼成	長岡		
10	4	水			石器概説	川道・長岡		
	11	水			考古学調査法	川道・長岡		
	18	水	原の辻遺跡特論	川道・長岡	原の辻遺跡特論	川道・長岡		
11	15	水	原の辻遺跡発掘体験	古澤・長岡	考古学研究法③	川道・長岡		
1	17	水	博物館学	長岡	博物館学	長岡		
	31	水			石器実測	川道		
2	7	水	拓本とり体験	古澤・長岡				
3	14	水			壱岐の遺跡	古澤・長岡		

体験入学等に関すること

月	日	曜	行事名	担当者	行事内容
4	7	金	第1回センター・壱岐高連絡協議会	所長、室長、長岡	自己紹介、新年度のコース運営等の協議・調整
8	26	土	第1回コース体験入学	長岡	コース授業の概要説明、一支国博物館・埋文センター案内
11	5	日	第2回コース体験入学	長岡	コース授業の概要説明、一支国博物館・埋文センター案内
2	20	火	センター・壱岐高授業担当職員事前打ち合わせ	長岡	連絡協議会前の事前打ち合わせ
	27	火	コース3年生表敬訪問	館長、所長、室長、古澤、長岡	所長・授業に関わった職員との懇談会
3	14	水	第2回センター・壱岐高連絡協議会	室長、長岡	年度末反省及び次年度計画の協議・調整

原の辻遺跡の発掘実習

体験入学の案内

いる。平成 29 年度は、4 年ぶりに 3 学年すべての授業が実施された。1 年生の「歴史学入門」を 8 回、2 年生の「考古学入門・生活文化史」を 16 回、3 年生の「課題研究支援」を 3 回実施した。授業形態は、一般的な講義形式のものから原の辻遺跡の発掘体験、島内巡検など多様な内容となっている。また、2 回行われた体験入学においては、参加した保護者や中学生に対して授業内容の紹介やセンター施設の見学等を実施した。今年度は奈良大学と奈良県が主催している「歴史フォーラム」に研究論文を応募するための研究支援を行った。2 年生は「長崎県壱岐市馬立（もうたる）海岸遺跡の研究」、3 年生は「大村家墓所の研究」を行い、総応募数 116 件の内、上位 5 組の優秀賞に壱岐高校の 2 組ともが選ばれた。

研究支援の様子

奈良大学「歴史フォーラム」優秀賞受賞の様子

（8）学校教育支援「埋文ＭＡＩＢＵＮ学びのサポート」

本センターは、「埋文ＭＡＩＢＵＮ学びのサポート」という学校教育支援を行っている。これは、センター職員の高い専門性や、石器・土器など実際の遺物、さまざまな機器を活用したセンターでの学習や出前授業等を通して、考古学への児童生徒の興味・関心を高めるほか、幅広い知識や技能の習得をサポートすることを目的として実施している。平成 29 年度は、13 件 566 人の利用があった。列島展が開催されたため、利用者数が増えている。

月	日		学校名	内容
6	20	月	壱岐市立筒城小学校５・６年	センターと博物館の見学
8	26	日	熊本大学	学芸員実習
9	12	水	長崎国際大学	センターと博物館の見学
10	18	日	壱岐市立郷ノ浦中学校１年	センターと博物館の見学
	24	金	壱岐市立芦辺中学校１年	センターと博物館の見学
1	19	火	長崎県立壱岐高等学校	ボランティアガイド事前指導
	26	金	長崎県立壱岐高等学校	ボランティアガイド事前指導
	27	土	長崎県立壱岐高等学校	ボランティアガイド
	28	日	長崎県立壱岐高等学校	ボランティアガイド
	31	水	長崎県立壱岐商業高等学校	列島展見学会
2	4	日	長崎県立壱岐高等学校	ボランティアガイド
	7	水	長崎県立壱岐高等学校	列島展見学会
	9	金	長崎県立壱岐商業高等学校	ボランティアガイド事前指導

４．東アジア考古学研究事業

（１）東アジア国際シンポジウムの開催

東アジア考古学研究室は、本県が古代から東アジア交流の要衝として独特の文化を育んできた歴史的経緯を踏まえ、東アジア的視点に立った考古学研究を推進しその成果を発表している。平成 29 年度は「鉄を求めて大海を渡る。―弥生の鉄ものがたり―」をテーマとしてシンポジウムを開催した。

○主　催　長崎県埋蔵文化財センター

○共　催　釜山博物館、長崎歴史文化博物館、壱岐市立一支国博物館

○後　援　長崎市教育委員会、壱岐市教育委員会、魏志倭人伝のクニグニネットワーク参加教育委員会、朝日新聞社、長崎新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、壱岐新聞社、（株）壱岐新報社、ＮＨＫ長崎放送局、ＫＴＮテレビ長崎、ＮＢＣ長崎放送、ＮＣＣ長崎文化放送、ＮＩＢ長崎国際テレビ、壱岐ビジョン株式会社

○日　時　長崎会場：平成 29 年 10 月 22 日（日）13:00 ～ 16:00

壱岐会場：平成 29 年 11 月 23 日（土）14:00 ～ 15:30

○場　所　長崎会場：長崎歴史文化博物館ホール

壱岐会場：壱岐市立一支国博物館多目的ホール

○参加者　193 名

○内　容

〈長崎会場〉

第Ⅰ部　壱岐と韓国の鉄の様相

①壱岐における弥生時代の鉄

長崎県埋蔵文化財センター調査課　山梨　千晶

②釜山地域における三韓時代の鉄

韓国・釜山博物館　朴　程　郁

（通訳）長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室　古澤　義久

第Ⅱ部　パネルディスカッション「鉄からみた日韓交流」

コーディネーター

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター　村上　恭通

〈壱岐会場〉

①壱岐における弥生時代の鉄

長崎県埋蔵文化財センター調査課　山梨　千晶

②カラカミ遺跡の鉄ものがたり

壱岐市教育委員会文化財課　松見　裕二

【長崎会場】パネルディスカッション

【長崎会場】シンポジウムのメンバー

【壱岐会場】松見裕二氏の発表

【壱岐会場】壱岐高校生徒の発表

（2）長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第 8 号の刊行

本センターの研究紀要は、開所以来毎年刊行を重ねている。第 8 号では次の 7 本の論考を掲載した。このうち、「長崎県壱岐市・馬立（もうたる）海岸遺跡の研究」は壱岐高校東アジア歴史・中国語コース 2 年の奈良大学歴史フォーラム応募論文である。

川道 寛・片多 雅樹「長崎県における黒曜石原産地研究の進展（2）」
古澤 義久 「対馬島 1985 年分布調査採集韓半島系土器について」
柴田 亮 「中世対馬の基礎的研究～木坂海神神社弥勒堂跡の出土品を対象として～」
合澤 哲郎・片多 雅樹「長崎県松浦市・鷹島海底遺跡出土銅製品の蛍光 X 線分析」
宮下 雅史 「花十字紋瓦の二次加工と転用について」
寺田 正剛 「近年の長崎県における埋蔵文化財保護について～ 10 年間の県内の動向～」
江口 幸希・木榑 栓・滝川 和遥・森 進「長崎県壱岐市・馬立（もうたる）海岸遺跡の研究」

Ⅳ．平成 29 年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要

１．諫早農業高校遺跡（いさはやのうぎょうこうこう）【遺跡調査番号：２０１７０１】

所 在 地　諫早市立石町 1003
調査原因　諫早農業高校野菜温室改築工事
調査期間　平成 29 年 5 月 8 日～平成 29 年 6 月 9 日
報 告 書　平成 30 年 3 月刊行済
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　200 ㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

諫早農業高校遺跡は、諫早市の中心を流れる本明川の支流半造川左岸のなだらかな丘陵上に位置する。標高は 5 ～ 12m で今回の調査地点は丘陵の裾部にあたる。弥生時代の遺跡として周知されており、甕 32 個の出土や副葬品の細形銅剣がよく知られる。また、古代・中世の駅家である船越駅や中世の船越城があったとされており、周辺には古代・中世の田井原条里遺跡や西郷氏・龍造寺氏が利用したとされる沖城跡が存在する。

遺跡位置図

調　査

検出した遺構総数は約 240 基で、内訳は甕棺墓 1 基・土器埋設ピット 2 基・火葬土坑 1 基・掘立柱建物跡 1 棟・土坑 3 基・焼土を伴う遺構 3 基・ピット多数からなる。甕棺墓は弥生時代中期前半の日常土器を用いた複数の小児棺とみられる。火葬土坑は長軸 187cm の長楕円形で底面の四隅に棺台石が据えられており、類例から 14 世紀後半のものと考えられる。掘立柱建物跡は 5 間× 3 間以上の規模で南辺に庇が付く。柱穴の直径は 60cm 程度で礎板石を有する。土師質土器片や瓦質火鉢片、銅製仏像等が出土した。包含層の遺物では、4 層～ 5 層上位で弥生時代中期土器の小片が多量に出土した。4 層では、石製垂飾 1 点や多量の黒曜石剥片、土師器・須恵器片、少量の黒色土器片や中世を主とした土師質土器小片が出土したほか、緑釉陶器小片 1 点の出土が特筆される。

掘立柱建物跡・火葬土坑完掘状況

まとめ

これまで伝聞のみであった甕棺墓の存在を確認できたことや、緑釉陶器片の出土、中世の火葬土坑・掘立柱建物跡の検出等、調査面積に比して大きな成果があった。特に中世の遺構群は船越城を考える上での一資料となった。

【調査担当：松元・宮木・千原】（文責：松元）

２．頭ヶ島白浜遺跡（かしらがしましらはま）【遺跡調査番号：２０１７０２】

所 在 地　南松浦郡新上五島町友住郷字白浜　　**調査主体**　新上五島町教育委員会

調査支援　長崎県埋蔵文化財センター、世界遺産登録推進課

調査原因　保存目的　　**調査面積**　30 ㎡

調査期間　平成 29 年 4 月 18 日～ 5 月 1 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　平成 30 年度刊行予定　　**処　　置**　埋め戻し保存

立　地

頭ヶ島白浜遺跡は中通島の北東部に位置する頭ヶ島に所在する。島の地質は五島層群からなり、周囲の海岸はほとんどが岩礁だが、わずかに砂浜が見られる。遺跡は白浜地区の海岸砂丘上に立地する。

遺跡位置図

調　査

今回の調査は、1995 年度調査で確認された近世墓の広がりを確認するために行われ、遺跡北西部に位置するキリシタン墓地を中心に計 5 箇所の調査区を設定した。

トレンチ TP201704 完掘状況

墓地外に設定した TP201701、TP201702 の 2 調査区は、近現代に大きく撹乱を受けていることが確認された。墓地内に設定した TP201703 では遺構は確認されなかったが、縄文土器片、黒曜石製の石鏃が出土した。TP201704 では人骨が出土した。出土状況から集積状態であり埋葬時の状況は留めていないものと判断した。また、法面で一部白色砂層が落ち込む状況を確認したが、時間的な制約のため精査できなかった。TP201705 では近世以前の遺物は出土していない。

なお、キリシタン墓地東側法面では骨片が散布している状況を確認した。また、骨片付近の法面で寛永通宝を、墓地内で縄文土器片、石器を表採している。

まとめ

今回の調査では、当初期待していた近世墓の広がりは確認できなかった。なお、調査の目的からは外れるが、表採及び TP201703 出土の縄文土器片は大型の破片も多く、接合関係にあるものも認められ、白浜集落東側の丘陵付近に縄文時代の集落跡が存在する可能性がある。

【調査担当：中山（新上五島町教育委員会）、宮武（世界遺産登録推進課）・山梨・宮木】（文責：山梨）

３．平ノ前城跡（ひらのまえじょう）【遺跡調査番号：２０１７０３】

所 在 地　大村市平町 1543-3 番地
調査担当　新幹線文化財調査事務所
調査原因　九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設
調査面積　1,200 ㎡
調査期間　平成 29 年 5 月 24 日～平成 29 年 8 月 31 日
調査区分　本調査
報 告 書　平成 30 年度刊行予定
処　　置　調査後工事

立　地

平ノ前城跡は、多良山系から火山麓扇状地を開析して南流する鈴田川左岸の平町に位置し、南部に張り出す標高約 50 mの低丘陵上の先端部に立地する。周辺部は、鈴田峠を境界として大村市と諫早市の境目にあたることから、鈴田川流域を中心に中世城館が集中している。江戸期には長崎街道の往来があり、現在では主要幹線道路の国道 34 号線が通るなど交通の要衝地として知られる。

遺跡位置図

調　査

今回の調査では、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設開発予定地内ですでに公有化が済んだ 1,420 ㎡のうち平成 28 年度調査分（220 ㎡）を除く 1,200 ㎡を調査対象とした。調査範囲が傾斜角 30 ～ 35 度の斜面の掘削となったため、安全性を考慮してロープ及びハーネスを用いた高所ロープ作業となった。主な遺構としては、帯曲輪、堀切、竪堀、土塁を検出したほか、北西から南にかけて上段の 2 ～ 3 段に鉢巻状の石積みと考えられる切岸を確認した。出土遺物の多くが曲輪の床面や東側斜面などから出土し、16 世紀後半頃の景徳鎮・漳州窯系青花を主体とする貿易陶磁をはじめ、15 世紀頃のものと推定される宝篋印塔の相輪部が出土した。このほか、銭貨 13 枚（寛永通宝）や用途不明の円礫や金属片が出土した。

出土した宝篋印塔相輪部（西から）

まとめ

平成 28 年度調査区が主曲輪を中心としたのに対し、今回の調査区は帯曲輪を中心とする遺構群を検出した。注目される出土遺物は、15 世紀頃の宝篋印塔相輪で、東側低地部で確認されている石塔群とほぼ同時期のものであり、大村藩編纂の「郷村記」にわずかに伝承が伝わる幸久寺との関連が指摘される。

【調査担当：中尾・一瀬】（文責：一瀬）

４．川端（かわばた）遺跡【遺跡調査番号：２０１７０４】

所 在 地　大村市鬼橋町 47-11 ほか
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査原因　都市計画道路池田沖田線建設
調査面積　1,943 ㎡
調査期間　平成 29 年 6 月 2 日～平成 29 年 10 月 25 日
調査区分　本調査
報 告 書　平成 30 年 3 月刊行済
処　　置　調査後工事

立　地

川端遺跡は更新世に形成された扇状地礫層を基盤とする大村平野北部に位置し、二級河川・郡川の下流域左岸に広がる遺跡で、弥生時代の埋蔵文化財包蔵地として周知されている。今回調査区はその北西端にあたる。

遺跡位置図

調　査

検出した遺構総数は約 110 基で、内訳は掘立柱建物跡 1 棟・土坑 3 基・溝状遺構 1 条と柱穴を含む多数のピットからなる。土坑 SK01 は不整長方形プランで長軸 2.0 m・深さ 0.2 mを測る。長辺壁際で板石を検出、中央部では焼土を検出した。破壊された石棺墓の可能性がある。掘立柱建物跡 SB01 は建物規模 4 間×2 間以上(長軸長 5.5m・短軸長は調査区外に伸びる為不明)で柱穴の長径 70cm 前後、長軸は座標北から西に 19 ～ 20 度ほど振れており、竹松遺跡の建物跡群とは一致しない。溝状遺構 SD01 は最大幅 1.2m・深さ 0.3m で出土遺物は青磁の小片のみである。

土坑 SK01 完掘状況

包含層出土遺物では弥生時代の土器を中心に多数の遺物が出土した。後期が主体で台付甕や肥前型器台等も含むほか、縄文時代の剝片鏃や古墳時代初頭の土器も出土している。古代～中世では土師質土器が出土しているものの、竹松遺跡で多く出土している中国産青磁･白磁片の出土はごく僅かであった。

まとめ

弥生時代後期の在地系土器群や古代・中世の遺構・遺物が出土したことから、竹松遺跡を中心に広がる集落域に含まれる遺跡と考えられる。

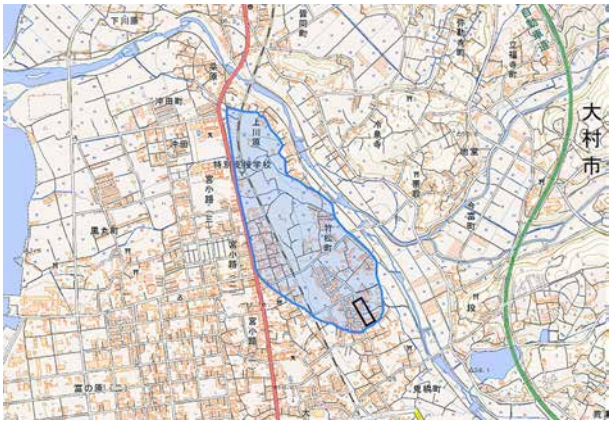
【調査担当：宮木】（文責：宮木・松元）

5．竹松（たけまつ）遺跡【遺跡調査番号：２０１７０５】

所 在 地　大村市鬼橋町 24　ほか
調査原因　都市計画道路池田沖田線建設
調査期間　平成 29 年 7 月 3 日～平成 29 年 11 月 17 日
報 告 書　平成 30 年度刊行予定
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　1,386 ㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

竹松遺跡は大村市北部の大村扇状地上に立地する。多良岳を源流とする郡川の下流域左岸の大規模遺跡であり縄文時代から近世までの遺物・遺構が確認されている。今回の調査地点は竹松遺跡の南端にあたり、川端遺跡、平野遺跡に隣接する。



遺跡位置図

調　査

調査区は道路によって分かれた北側をＡ区、南側をＢ区として調査を行っており、Ａ区では掘立柱建物跡 1 棟、ピット 102 基、焼土ピット 1 基、土坑 3 基、自然流路 1 条が、Ｂではピット 87 基、土坑 4 基、溝 2 条、自然流路 1 条、ピット列 1 列が確認された。

ピット列完掘状況（破線は近世の溝跡）

Ａ区で確認された焼土ピットは武雄系の甕の破片上で焼土が確認されており、炉と考えられるが性格は不明である。Ｂ区では近世の溝に沿う形で柵列と考えられるピット列が検出された。柵列の中央付近では両側に柱穴が 2 基ずつ張り出す箇所があり、何らかの構造物が作られていた可能性が高い。遺物は約 2,850 点が出土している。近世陶磁器が中心だが、須恵器や土師質土器、古代～中世の輸入陶磁器と思われる青磁・白磁片、黒曜石製の石鏃もわずかに見られる。

まとめ

当調査区は竹松遺跡の南端にあたり、川端遺跡、平野遺跡と接する位置にある。しかしながら隣接する川端遺跡調査区で見られた弥生時代～古代の遺物はほとんど確認されていない。一方近世になると溝や廃棄土坑、構造物を伴う柵列などが確認されることから、調査区周辺が盛んに利用されるようになるものと考えられる。

【調査担当：山梨、千原】（文責：山梨）

6．中島（なかしま）遺跡【遺跡調査番号：２０１７０６】

所 在 地　五島市浜町 327
調査原因　主要地方道路福江富江線改良工事
調査期間　平成 29 年 7 月 31 日～平成 29 年 8 月 1 日
報 告 書　刊行予定なし
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　8 ㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　本調査

立　地

当遺跡の所在する浜地区は福江島南東部の鬼岳西麓裾部に位置し、周辺は鬼岳火山群により形成された低位溶岩台地が広がる。遺跡の範囲は富江湾奥の後背湿地にあたり標高 2 ～ 6m を測る。これまで複数の発掘調査が行われ、縄文時代前期～後期を主とした多くの遺物・遺構のほか弥生時代、古墳時代の遺物が出土している。周辺遺跡では大浜遺跡（縄文・古代）、堂園遺跡（縄文・弥生）、宮下貝塚（縄文）等がある。

遺跡位置図

調　査

今回の調査では、工事範囲のうち拡幅の部分が比較的広く盛土厚の薄い地点を選び、2m × 3m と 1m × 2m のトレンチを設定し人力掘削により調査を行った。現況は狭小な段畑となっているが、表土下は周辺地形のとおり西に下る斜面となっており、黄褐色風化土層が厚く堆積している（2 層）。基盤である溶岩由来の礫が混じり、下位ほど礫質となる（3 層）。2 層は縄文時代・弥生時代の土器片を含む 2 次堆積層と考えられる。礫質の 3 層以下は掘削できず、既往調査で縄文時代後期の包含層とされた青灰色砂層の有無や基盤の溶岩は確認できなかった。今回の範囲確認調査では遺構は検出されず、表土下の 2 層で土器片が 26 点出土した。完形品ではないがほとんど摩滅していない。15 点が縄文土器で、胎土に滑石粒を含むものが多く坂の下式をはじめ中・後期が主である。緑白色石材製の大珠未成品、磨石も出土している。ほか 11 点は弥生土器でハケ目のある胴部片等がある。

出土遺物

まとめ

工事による埋蔵文化財への影響があるため、設計変更が不可能な場合は記録保存調査が必要である。

【調査担当：松元・千原】（文責：松元）

7．宇多尾（うたお）遺跡【遺跡調査番号：２０１７０７】

所 在 地　五島市奈留町浦
調査原因　浦郷寺畑川通常砂防事業
調査期間　平成 29 年 8 月 2 日～平成 29 年 8 月 3 日
報 告 書　刊行予定なし
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　8 ㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　慎重工事

立　地

調査地点は、奈留島浦郷にそびえる城岳の裾のなだらかな斜面に位置する旧耕作地で現況は雑木林である。近隣の字殿口付近で多数の人骨が出土したとの記録や（1918『奈留島村郷土誌』）、浦郷の天神様、大串、大林において石器等が発見されたらしい（1962『郷土奈留』）。1984 年の分布調査における表採品には、曽畑式土器、弥生前・中期土器、石鏃、石錐、石核、打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、黒曜石剥片等がある。

遺跡位置図

トレンチ掘削状況

調　査

谷部の砂防ダム予定範囲及び平場の工事用道路・ヤード範囲の約 180 ㎡が対象範囲で、地形的条件や雑木林の繁茂状況により、平場の工事用道路及びヤード範囲に 2m × 2m のトレンチを 2 箇所設定し人力掘削による調査を行った。表土及び旧耕作土が 0.3 ～ 0.5m ほど堆積しており、その下は小礫を含む黄褐色シルト質細砂土となっていた。深度 1m まで掘削したが遺構・遺物ともに確認できなかった。

まとめ

トレンチでは遺構・遺物ともに確認できなかったが、埋蔵文化財包蔵地であるため慎重工事を行うよう指示した。

【調査担当：松元・千原】（文責：千原）

８．樋渡（ひわたし）地点（現・太田（おおた）遺跡）【遺跡調査番号：２０１７０８】

所 在 地　松浦市御厨町寺ノ尾免
調査原因　西九州自動車道（松浦佐々道路）建設
調査期間　平成 29 年 9 月 25 日～平成 29 年 10 月 6 日
報 告 書　平成 30 年度刊行予定
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　138 ㎡
調査区分　試掘調査
処　　置　平成 30 年度本調査

立　地

当地点は、松浦市北部・御厨町の山間部に位置する。竜尾川東岸の丘陵裾部に立地し、東から西に向かって傾斜している。調査地点及びその周辺には水田が広がっている。

遺跡位置図

調　査

試掘調査対象範囲は、昨年まで水田として利用されていた面と、水田面より 2m 程度高い平場からなる。

試掘トレンチは 2m × 5m を基準として、水田面・平場にそれぞれ 8 箇所、計 16 箇所を設定し調査を行った。水田面に設定したトレンチからは遺物の出土はなかった。一方、平場に設定したトレンチからは多量の土器片（弥生時代中期）と少量の須恵器片（古墳時代後期）・石器が確認された。

TP2 北壁土層断面状況（底面に焼土範囲・被熱礫）

包含層としては、弥生時代中期の土器片が多量に出土する暗褐色土層（包含層 1）・褐色土層（包含層 2）・暗褐色土層（包含層 3）を確認した。なお、包含層 3 からは、古墳時代後期の須恵器片と、遺構の可能性のある焼土範囲および被熱礫が検出された。

古墳時代の須恵器が出土した包含層 3 の直上において、弥生土器を多量に含む包含層 1 が確認されている点より、包含層 1 は調査地点上方の丘陵部より流入した二次堆積の可能性がある。

まとめ

調査後、字名を取って太田遺跡として遺跡地図に登載した。平成 30 年度に本調査を予定しており、包含層が古墳時代の一次堆積であるのか、また集落遺構の有無確認などが課題となっている。

【調査担当：松元・千原】（文責：千原）

９．大谷（おおや）第１遺跡【遺跡調査番号：２０１７０９】

所 在 地　壱岐市芦辺町国分東触
調査原因　県道 172 号線改良工事
調査期間　平成 29 年 10 月 25 日
報 告 書　平成 30 年度刊行予定
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　1.26 ㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　平成 29 年度本調査

立　地

遺跡は壱岐島中央部の玄武岩を基盤とする丘陵地に位置する。周辺には古代から中・近世の遺跡が多く立地する。遺跡西方には、古代の遺跡として周知される壱岐氏居館跡、壱岐国分寺跡が、南西には中・近世の郡城跡が所在する。また大谷第１遺跡に含まれる形で弥生時代・古墳時代の遺物散布地である大谷第２遺跡、縄文時代・弥生時代・古墳時代・中世の遺物散布地である大谷第３遺跡が所在する。

遺跡位置図

調　査

調査地はもともと県道との比高差が２ｍ程ある畑地だったが、工事に先立ち県道と同レベルまで削平されていたため、削られた法面での土層堆積の確認及び、0.8m × 0.9m（TP1）、0.6m × 0.9m（TP2）の小規模な試掘坑を２箇所設けて遺跡の残存状況を確認した。試掘坑では暗褐色粘質土が２層堆積しており、調査対象地東側では１層と２層の間に橙色粘質土のブロックが入る。遺物は法面精査ではほとんど確認できなかったが、試掘坑では弥生土器片、土師器片、須恵器片が約 60 点出土した。

調査地近景

まとめ

今回の調査はごく小規模なものであるが、面積に対して遺物の出土量が多いことから包含層が残存している可能性が高いと判断されたため、事業者と協議し本調査を行うこととなった。なお、本調査は平成 30 年３月に実施した。

【調査担当：山梨、宮木、千原】（文責：山梨）

10. 原の辻遺跡（はるのつじ）【遺跡調査番号：２０１７１０】

所 在 地　壱岐市石田町石田西触 327-2
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査原因　原の辻遺跡調査研究事業
調査面積　220 ㎡
調査期間　平成 29 年 11 月 1 日～平成 29 年 12 月 28 日
調査区分　範囲確認調査
報 告 書　平成 30 年度刊行予定
処　　置　埋め戻し保存

立　地

調査対象地は原ノ久保地区に所在する標高約 16m の台地で、現在は畑地として利用されている。1996 年度調査 E 区、2000 年度 11 区に該当する。

遺跡位置図

調　査

5m × 5m のグリッドを基本としつつ、地形に合わせて、調査区を設定した。1A 区、1B 区、1C 区、2B 区、2C 区は 5m × 5m の正方形、2A 区は短辺 5m の二等辺三角形、3A 区、3B 区は 3m × 5m の長方形、4A 区は 5m × 4m の長方形、4B 区、4C 区は 2m × 5m の長方形の調査区である。表土から人力で掘削した。

表土下の様相としては、西側では弥生時代以前の無遺物層が広がっていたが、東側では須玖Ⅱ式を主体とする弥生時代の包含層が確認されている。この弥生時代包含層より下層で遺構が確認されている。4A 区、1A 区では 1 条の溝状遺構が確認された。台地に登る通路であった可能性がある。2A 区では 3 基の柱穴が確認されているが、一直線上にほぼ等間隔で並んでいる。2B 区では 1 基の土坑が確認されている。土坑底部と埋土からは城ノ越式土器が出土している。この土坑の南側では 2000 年度調査において小児甕棺が発見されているが、この小児甕棺は須玖Ⅱ式期の所産で、今次調査発見の土坑と直接的な関係はない。今次調査発見の土坑からは丹塗磨研土器も出土しており、祭祀土坑である可能性も視野に入れて検討を進めていきたい。調査区南側の 4B 区では過去にブロック塀を建築した折に土器が多数出土したという情報があり、調査したところ、埋め戻された多量の土器が出土したが、おおむね須玖Ⅱ式に属する土器であった。このほか 4B 区の弥生時代包含層では勾玉が出土した。調査区南側では、墓地に関係する遺構が存在した可能性がある。

2B 区で検出された土坑

まとめ

本調査区では土坑や柱穴が確認されたものの、墓地は確認されなかった。過去の調査では小児甕棺墓が確認されているが、調査区南側を除き、成人の墓地はなかったものと考えられ、原ノ久保地区における墓地の分布を明らかにするという成果を得ることができた。本調査区で発見された土坑や柱穴の性格究明については今後の課題となる。

【調査担当：古澤・長岡】（記：古澤）

11. 平ノ前城跡（ひらのまえじょう）【遺跡調査番号：２０１７１１】

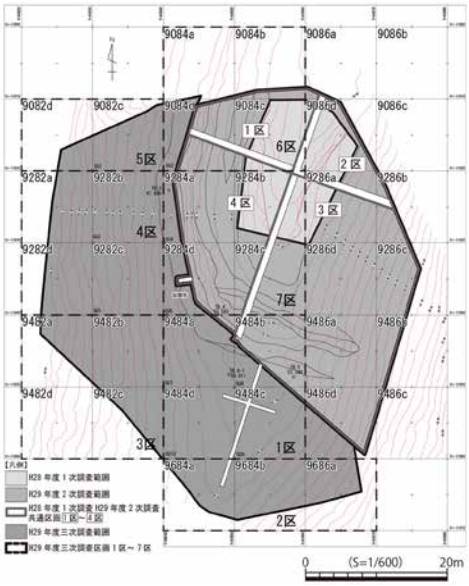
所 在 地　大村市平町 1543-3 番地
調査原因　九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設
調査期間　平成 29 年 11 月 15 日～平成 30 年 1 月 30 日
報 告 書　平成 30 年度刊行予定
調査担当　新幹線文化財調査事務所
調査面積　1,040 ㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

平ノ前城跡は、多良山系から火山麓扇状地を開析して南流する鈴田川左岸の平町に位置し、南部に張り出す標高約 50 mの低丘陵上の先端部に立地する。遺跡の東側には鈴田川の谷底平野が広がり、西側は小川内川の侵食によって形成された開析谷となっている。

調　査

今回の調査では、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設開発予定範囲のうち、すでに公有化が終了し、平成 28 年度（HNM201611）及び平成 29 年度第Ⅰ期（HNM201703）に調査を終えた 1,420 ㎡の北半分に続いて、新たに地権者の同意を得た遺跡の西側斜面と南半分にあたる 1,040 ㎡を調査対象範囲とした。



調査区グリッド配置図

基本層序としては、遺跡周辺の地質環境が砂岩岩盤層をベースとした地層となっており、1 層（黒褐色の腐植土）、2 層（明黄褐色の砂質土 / 遺物包含層）、3 層（黄褐色の砂質土）、4 層（淡黄色の岩盤層）と位置づけられる。西南方向にのびる平坦な犬走りと西側斜面からは、拳大の円礫や曲輪からの流れ込みと推定される白磁片や土師質の土器片が出土した。犬走りと堀切からさらに南側にあたる 1 区と 2 区からは、近世期の陶磁器片が出土した。

1 区・2 区 完掘状況（北から）

まとめ

今回の調査では、主に山城の外郭部分にあたる調査範囲であったため、出土遺物は少なく、新たな遺構も検出されなかった。平成 28 年度及び平成 29 年度の調査から出土した遺物の多くが景徳鎮窯系、漳州窯系の染付碗・皿であったことから 16 世紀半ばから後半にかけて利用されていた山城と推測される。また、近世期の遺物もわずかに出土していることから、廃城後も何らかの形で土地利用があったことが窺える。

【調査担当：村川・一瀬】（文責：一瀬）

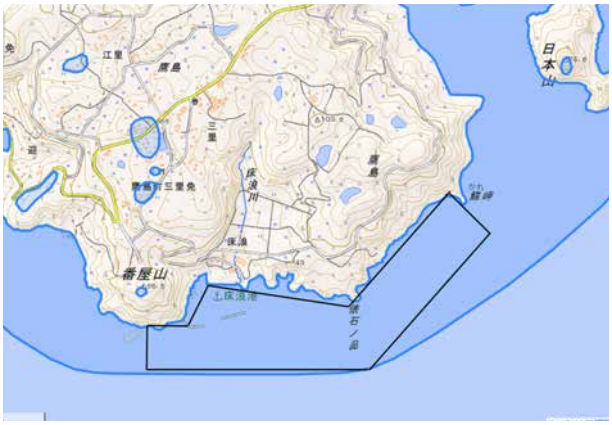
12. 鷹島海底遺跡（たかしまかいてい）【遺跡調査番号：２０１７１２】

所 在 地　松浦市鷹島町三里免地先公有水面
調査原因　保存目的
調査期間　平成 29 年 11 月 11 日～ 11 月 15 日
報 告 書　平成 30 年 3 月刊行済
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　557, 500 ㎡
調査区分　音波探査
処　　置　異常反射体の突き棒調査

立　地

本遺跡の調査は、昭和 55 年から 30 年以上にわたり実施されており、蒙古襲来関係の遺物がこれまでに約 4, 000 点発見されている。弘安の役（弘安 4・1281 年）に際し、元軍の軍船が沈没した場所として世界史的にも評価されている。平成 23 年には、琉球大学の調査によって元軍の軍船が初めて確認され、これを契機に神崎地区の 38 万 4 千平方メートルの範囲が鷹島神崎遺跡として平成 24 年 3 月 27 日に海底遺跡としては日本初の国史跡として指定されている。

長崎県教育委員会では、国史跡範囲の追加指定を目的として、平成 25 年度から 5 か年計画で分布調査などを実施している。平成 29 年度は、前年度に引き続き松浦市と共同で海底下の異常反射体の抽出を目的とした音波探査を実施した。



遺跡位置図

音波探査風景

まとめ

調査の結果、50 地点において異常反射体を確認した。平成 28 年度の神崎免地先で実施した探査では、100 箇所以上の異常反射体を抽出しているが、今回の床浪港沿岸の探査で抽出した異常反射体の数はその半分の 50 箇所であった。また、抽出した異常反射体のうち、工区西側で抽出されたものは 17 箇所だけであり、その大半は比較的堆積層の厚い工区東側の沖側に集中している。その工区東側における反射体は、調査範囲に広範囲にわたって養殖用筏が設置されていることや、神崎免地先においても筏が設置されている周辺に同様の反射体が複数確認されていることから、シンカーなどの漁業関連物が埋没したものである可能性が考えられる。また、調査範囲全般にわたって露岩域が多く堆積層の分布が限定的であることから、遺物等が埋没しにくい堆積環境であることがいえる。

【調査担当：片多】（文責：片多）

13. 田川（たがわ）遺跡【遺跡調査番号：２０１７１３】

所 在 地　松浦市御厨町田代免
調査原因　西九州自動車道（松浦佐々道路）建設
調査期間　平成 30 年 2 月 13 日～ 2 月 23 日
報 告 書　刊行予定なし
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　63 ㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　慎重工事

立　地

松浦市西部は基盤である第三紀層上を覆う玄武岩により溶岩台地を形成している。今回の調査対象地は低丘陵の間の谷部に位置し、周知の遺跡範囲の北西端部にあたる。調査地周辺は水田となっており、竜尾川地区県営ほ場整備事業に伴って平成 6 年度及び 7 年度に松浦市教育委員会による発掘調査が行われた地点に近接する。

遺跡位置図

調　査

調査は西九州自動車道用地内の各水田面にトレンチ（TP1 ～ TP7）を設定し行った。掘削は基本的に表土及び造成土を重機で掘削し、必要に応じて人力掘削・精査を行った。

TP2 西壁土層断面

TP2、3、4、7 では地山と考えられる赤色の風化岩盤を検出するまで掘削を行ったが、包含層は確認できなかった。TP2、3 では造成土下で灰色粘質土層を確認しているが遺物は出土していない。TP1 では調査区南側で粘質土の落ち込みを確認したが、トレンチの端に当たるため、遺構かどうかは確認できなかった。TP5 では現在の耕作土のすぐ下から風化礫が多量に含まれる層を検出しており、ほ場整備の際に地山の玄武岩まで掘削が及んでいる可能性が高い。

まとめ

今回の範囲確認調査ではいずれの調査区でも包含層は確認されず、遺物はほとんど出土しなかった。TP3 では現耕作土下に 1m 近い造成土が見られる一方、隣接する水田に設定した TP5 では前述のように耕作土下で地山と考えられる層を検出しており、調査対象地周辺はほ場整備により大きく改変を受けているものと考えられる。

【調査担当：山梨、千原】（文責：山梨）

14. 大谷（おおや）第１遺跡【遺跡調査番号：２０１７１４】

所 在 地　壱岐市芦辺町国分東触
調査原因　県道 172 号線改良工事
調査期間　平成 30 年 2 月 28 日～ 3 月 27 日
報 告 書　平成 30 年度刊行予定
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　35 ㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

立地と遺跡位置図については９．大谷第一遺跡【調査番号：201709】を参照。

調　査

工事範囲の西側３分の２程の範囲では既に基盤となる風化岩盤が露出していたため、土の堆積が残る東側部分を対象とし、調査開始時の地表面から 30cm ほどをバックホーで、それ以下を人力で掘削した。

土層の堆積状況確認のため、調査区の北・西端にトレンチを設けたところ、調査区西端近くで岩盤が南及び東側に急激に落ち込み、調査区北壁周辺に礫群が広がることが確認された。礫群は調査区外まで広がっているため全体像は確認できなかった。また断ち割りを行ったところ地山の傾斜に沿って堆積している状況が確認できたが、性格の詳細は不明である。その他の遺構は、礫群よりも下位にあたり地山となる褐色粘質土上でピット５基、炉跡と考えられる焼土跡１基を検出した。遺物は礫群よりも上位にあたる暗褐色粘質土から多量に出土しており、弥生土器、土師器、須恵器、青磁などが見られる。土師器、須恵器には古代のものが含まれる。いずれも破片であり、また弥生土器や土師器は摩滅した小片も多いことから、周辺からの流れ込みの可能性が高い。

調査区北壁土層断面

完掘状況

まとめ

今回の調査区では遺構は少ないものの多量の遺物が出土した。しかしながらその多くは流れ込みによるものと考えられる。遺物には須恵器や青磁片も含まれており、近隣に壱岐氏居館跡や壱岐国分寺跡が存在することから、それらに関係する集落が大谷第１遺跡周辺まで広がっていた可能性がある。

【調査担当：山梨】（文責：山梨）

報 告 書 抄 録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽうにじゅうろく
書　名	長崎県埋蔵文化財調査調査年報26
副書名	平成29年度調査分
巻 次	26
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第28集
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒811-5322　長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1　TEL0920（45）4080
発行年月日	2018年8月31日

所収遺跡名	所在地	遺跡コード		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町	遺跡番号			
諫早農業高校遺跡	諫早市	42204	062	20170508 ～ 20170609	200.0	学校建設
頭ヶ島白浜遺跡	新上五島町	42411	048	20170418 ～ 20170501	30.0	学術調査
平ノ前城跡	大村市	42205	204	20170524 ～ 20170831	1,200.0	鉄道
川端遺跡	大村市	42205	181	20170602 ～ 20171025	1,943.0	道路
竹松遺跡	大村市	42205	086	20170703 ～ 20171117	1,386.0	道路
中島遺跡	五島市	42211	033	20170731 ～ 20170801	8.0	道路
宇多尾遺跡	五島市	42211	130	20170802 ～ 20170803	8.0	河川
樋渡地点	松浦市	42208	未周知	20170925 ～ 20171006	138.0	道路
大谷第１遺跡	壱岐市	42210	369	20171025 ～ 20171025	1.3	道路
原の辻遺跡	壱岐市	42210	424	20171101 ～ 20171228	160.0	保存目的
平ノ前城跡	大村市	42205	204	20171115 ～ 20180130	1,040.0	鉄道
鷹島海底遺跡	松浦市	42208	162	20171111 ～ 20171115	557,500.0	保存目的
田川遺跡	松浦市	42208	059	20180213 ～ 20180223	50.0	道路
大谷第１遺跡	壱岐市	42210	369	20180228 ～ 20180327	35.0	道路

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第 28 集

長崎県埋蔵文化財調査年報 26
［ 平成 29 年度調査分 ］

2018 年 8 月 31 日

発 行　長崎県教育委員会
長崎市尾上町 3 番 1 号

印 刷（有）正文社印刷所
長崎市魚の町 6-6